

「映画に行きたい」外出に向けての取り組み

～COPMを活用した関わりが生活意欲の向上に繋がった症例～

竹内 陽子¹、稲次 正敬²、高田 信二郎³、稲次 美樹子²、湊 省²

¹医療法人凌雲会 老人保健施設 昴 訪問リハビリテーション部、

²医療法人 凌雲会 稲次整形外科病院、³独立行政法人 国立病院機構 徳島病院

【はじめに】精神的に落ち込みやすい症例にカナダ作業遂行測定(以下、COPM)から映画に行きたいという希望について支援を行った。一人での外出を目指し、自信の獲得や QOL 向上に向けた取り組みを報告する。なお、今回の発表はヘルシンキ宣言に則り、ご本人、ご家族、協力会社に対し発表の趣旨を十分に説明し同意を得た。

【症例紹介】HTLV-1 関連脊椎症、くも膜下出血を呈した 60 代女性。要介護度 2、身体障害者手帳 1 級。両下肢麻痺にて車椅子使用、排泄はトイレにて自己導尿、入浴以外の ADL は自立。IADL も夫の一部介助にて可能、外出は週 1 回程度。訪問リハ介入当初から精神的に落ち込みやすく、悲観的な発言が度々聞かれた。

【経過】本人と一人で行くための移動手段をバスと夫の送迎を利用する事とし、バス会社への介助依頼、バス停や外出先の下見をし外出計画を立てた。外出訓練ではバスの乗降、介助なしでの車椅子移動、本人が外出時に一番問題とするトイレ動作訓練を中心に実施した。外出後は、反省点や失敗への対処法など本人と話し合った結果を踏まえ外出手順やバス会社への連絡手順を作成し、徐々に段階付けて一人での外出計画や連絡、乗車が可能となった。しかし、毎回バス乗降時の時間や周囲の反応を気にされ、運転手の乗降介助の不安があった。

【対策】乗降時間短縮の為に、本人が利用する時間帯を配慮し、乗降手順・注意点を写真で記録し外出時に再確認、身障手帳提示や料金支払いの迅速な対応ができるようにした。運転手には写真で介助法を提示したり、バス会社へ介助法の申し送りを行った。

【結果と考察】外出訓練開始から 3 ヶ月後の COPM の評価では本人が重要と挙げた項目の遂行度・満足度が向上した。外出訓練開始からは、自主訓練を開始、インターネットを使用しての情報検索と行動変容が見られた。そして、本人が週 1 回の買物以外にも外出したい気持ちになり、夫との外出が増え、介助者付き添いでの旅行ツアーを探すなど意欲的な発言も多く、心境の変化が見られた。今回は、COPM を活用し、楽しみや生きがいから生活意欲の湧く目標設定ができ、成功体験を繰り返したことで本人の自信や生活意欲の向上に繋がったと考える。そして利用者の希望の実現には Dr. や CM、セラピスト、ご家族と目標を共有し、外出時に関わる人との連携も含めサポートができる環境の重要性を再認識した。今後は趣味活動として継続している折り紙を、作業療法作品展へ出展する事や地域の折り紙クラブへの参加を提案しており、本人に合った社会参加へのきっかけを提供していきたいと考える。